

# 看護記録語彙の 使用実態と特徴分析

— 看護師国家試験語彙・日本語能力  
試験語彙との比較を中心に

林 琳

## ◆要旨

**本**稿では外国人看護師（候補者）にとって困難点の一つである看護記録作成の支援に繋がる基礎データの構築を目指し、無作為に抽出された電子カルテデータ中のSOAP形式看護記録1001件（延べ語数51811、異なり語数2772）を「Web茶まめ」にて、形態素解析（短単位）を行い、使用語彙の傾向を観察した。また、看護師国家試験語彙データベース（奥田2011）との品詞別比較を行い、さらに看護記録語彙について日本語能力試験の級判定を行った。今後ますます増加することが予想される外国人看護師（候補者）の円滑な業務遂行を支援するためのカリキュラムや教材の開発の基礎的なデータになると期待できる。

## ◆キーワード

看護記録、SOAP、看護師国家試験、  
日本語能力試験

## ◆ABSTRACT

This paper aims at the construction of the basic data to support writing the nursing records which is one of the difficult points for foreign nurses (candidates). First, pick SOAP type electronic nursing records (1001 records, the number of all words: 51811, the number of different words: 2772) at random, and put them to [Web chamame] for morphological analysis (short-unit). Second, use the National Nursing Examination vocabulary database (Okuda 2011) to compare the different parts. Finally, judge class by the Japanese Language Proficiency Test (JLPT). In the future the number of foreign nurses is expected to increase. These results will be very important basic data for compiling professional books which can support foreign nurses in having a smooth work.

## ◆KEY WORDS

nursing records, SOAP, National Nursing Examination, Japanese Language Proficiency Test (JLPT)

## Analysis of the Use and Characteristics of Nursing Records Vocabulary Comparison with The National Nursing Examination and JLPT Vocabulary

LIN LIN

# 1 はじめに

看護記録の作成は、患者に適切な医療を提供するための重要な業務である(厚生労働省 2005) 一方、外国人看護師にとっての難関業務の一つでもある(石原 2012, 林 2017, JICWELS 2013)。看護師国家試験合格後の継続学習の支援として、EPA看護師に対する「申し送り」の指導に関する研究(永井 2010, 2013) や看護学生の実習記録からの専門語の抽出(李ら 2016) 等は既に見られるが、「看護記録」に関する研究は管見の限り極めて少ない。そこで、本稿は外国人看護師(候補者)の円滑な業務遂行を阻害する一つの要因である看護記録作成の効率化を図るために、看護記録データに対する語彙分析を行い、非母語話者の視点から看護記録語彙の特徴を明らかにすることを目的とする。使用語彙の特徴を明らかにすることで、外国人看護師(候補者)にとっての困難点やその指導方法に関する有益な示唆が得られると考える。

## 2 看護記録とは

看護記録は基礎(個人)情報、看護計画、経過記録、看護サマリーから構成されている。その中でも経過記録は、看護師が伝統的に記述してきた看護ケアの事実即した記録の部分で、最もよく作成されている看護記録である。また、経過記録ではSOAP形式が最もよく使用される(森田 2006)。そのため、本稿で扱う看護記録データもSOAP形式による経過記録とする<sup>[註1]</sup>。表1はSOAPの意味(左)とその記入例(右)を示している。

## 3 看護記録データ及び分析方法

今回分析データとした看護記録資料は、無作為に抽出された電子カルテデータからSOAP形式の経過記録部分のみを紙媒体に印刷した後、患者や医師など個人が特定される危険のある情報を塗りつぶした状態で提供された。その看護記録の記述をSOAPごとに1単位とし、再度電子化した結果、SOAP数は1001

表1 SOAPの意味(日本看護協会 2002: 146の内容に基づき筆者が作成)とSOAP形式看護記録の記入例(本田 2010: 58)

		月日	日時	#	
S (Subjective Data) (主観的データ)	患者の心身の訴え。(苦しいこと、不愉快なこと、気持ちの悪いこと、その他のさまざまな訴えの内容)	4/7	10:00	1	S: 長女) 休職することにしたので母に付き添える。転院がよいか在宅にするか迷っている。不安はIVH管理のこと。
O (Objective Data) (客観的データ)	看護師が観察した事実、行ったケア、検査データ等。				O: 30分間車いす乗車。長女の話聞く。その間嫌がることはないが、体がずり落ちる。
A (Assessment) (アセスメント)	収集した主観的データと客観的データの解釈、分析・評価。				A: 在宅での処置や介護のイメージが付きなため転院にすべきか迷っている。家族が決心できるための援助が必要である。
P (Plan) (プラン)	患者の問題を解決するための計画。				P: 介護支援専門員の役割について説明する。直接相談してから、在宅か転院か決めるとよいと話す。

であった。

対象データを「Web茶まめ」(形態素解析器: MeCab 0.996、日本語辞書: 現代語UniDic ver.20163)にて、形態素解析(すべて短単位)を行った。その結果(延べ語数: 51811、異なり語数: 2772 [空白、補助記号、数詞除外])を利用し、診療科別、記述部分(SOAP)別に品詞(MeCabの品詞分類に基づいて集計)・語彙分析を行った。次に、看護記録データを看護師国家試験語彙データベース(奥田 2011)と品詞別に比較し、重なり度合いを確認した。最後に、日本語読解学習支援システム「リーディングチュウ太」を利用し、看護記録語彙について日本語能力試験の級判定を行った<sup>[註2]</sup>。

## 4 結果と考察

### 4.1 看護記録語彙の使用実態

診療科別、記述部分(SOAP)別の品詞分析・語彙分析を通して、看護記録語彙の使用実態を探った。

#### 4.1.1 品詞分析

4.1.1では、各品詞の使用割合、CITR<sup>[註3]</sup>を分析した結果を示す。各診療科における品詞の使用傾向に違いは見られなかった。また、名詞語彙が全体の半数以上を占め、最も多様であり、看護記録を効率よく作成するために、幅広い名詞語彙

が要求されることが分かった。名詞語彙が外国人看護師（候補者）にとって学習負担の大きい項目であることが示唆される。一方、S・O・A・P情報ごとの品詞の使用傾向には差が見られた（表2）。O情報・A情報・P情報では、形容詞、副詞の使用がS情報ほど多くない上に、代名詞の使用は殆どなく、感動詞の使用も全くなかった。つまり、感動詞はS情報にしか出現しないという看護記録の特徴が明らかとなった。また、『場面から学ぶ看護の日本語』<sup>[註4]</sup>に示されている、看護記録を客観的かつ簡潔明瞭に書くための体言止め、名詞の多用といった特徴について、本調査の結果にも同様の特徴が見られた。

#### 4.1.2 語彙分析

4.1.2では、名詞に絞って語彙分析を行った結果を示す。各診療科における出現回数1の語を除いて使用比率1%以上の語（S情報・O情報・A情報・P情報における平均カバー率は49.5% 24.7% 46.4% 57.4%である）を今回の高頻度名詞語彙とした。そのうち、各診療科に共通に使用されるものがある一方、症状・診療の指標となるものを表す名詞や医療機器・器具等を表す名詞など、一つの診療科のみ高

表2 診療科全体S・O・A・P情報別品詞統計結果

	感動詞	形状詞	形容詞	接続詞	接頭辞	接尾辞	代名詞	動詞	副詞	名詞	連体詞	総語数	
S	延	68	198	587	2	44	58	103	1082	270	1235	25	7115
	異	26	14	51	1	6	36	19	165	68	372	5	818
	比率1	0.96	2.78	8.25	0.03	0.62	0.82	1.45	15.21	3.79	17.36	0.35	
	比率2	3.18	1.71	6.23	0.12	0.73	4.40	2.32	20.17	8.31	45.48	0.61	
CTTR	2.23	0.70	1.49	0.50	0.64	3.34	1.32	3.55	2.93	7.49	0.71	6.86	
O	延	0	408	401	8	338	1577	9	3301	165	20020	32	31799
	異	0	41	44	3	36	106	6	275	49	1769	7	2383
	比率1		1.28	1.26	0.03	1.06	4.96	0.03	10.38	0.52	62.96	0.10	
	比率2		1.72	1.85	0.13	1.51	4.45	0.25	11.54	2.06	74.23	0.29	
CTTR		1.44	1.55	0.75	1.38	1.89	1.41	3.38	2.70	8.84	0.88	9.45	
A	延	0	137	229	15	49	377	0	1350	37	4676	5	8767
	異	0	20	17	2	17	36	0	89	14	668	3	900
	比率1		1.56	2.61	0.17	0.56	4.30		15.40	0.42	53.34	0.06	
	比率2		2.22	1.89	0.22	1.89	4.00		9.89	1.56	74.22	0.33	
CTTR		1.21	0.79	0.37	1.72	1.31		1.71	1.63	6.91	0.95	6.80	
P	延	0	26	10	0	12	52	1	299	18	1934	1	2627
	異	0	5	6	0	5	23	1	44	5	365	1	480
	比率1		0.99	0.38		0.46	1.98	0.04	11.38	0.69	73.62	0.04	
	比率2		1.04	1.25		1.04	4.79	0.21		1.04	76.04	0.21	
CTTR		0.69	1.34		1.02	2.26	0.71	1.80	0.83	5.87	0.71	6.62	

延：延べ語数 異：異なり語数 比率1：延べ語数比率（%） 比率2：異なり語数比率（%）  
形容詞、副詞、代名詞、感動詞各比率、名詞延べ語数比率 p<.01

頻度に現れるものもあることが明らかになった（表3）。

また、S情報で使用される語がO情報、A情報、P情報ではより意味が細分化された専門語彙に置き換えられていることや多様な言い換えが存在することも分かった（図1）。効率的な日本語支援のためには、これらの高頻度名詞語彙や言い換え等について更なる整理とリスト化が必要である。

表3 高頻度名詞語彙

共通高頻度名詞語彙	各診療科に特徴的な高頻度名詞語彙					
	緩和ケア科	泌尿器科	脳神経外科	内科	外科	整形外科
S 感じ 痛み 足 お腹 トイレ	汁 緊張 介助	管 石	肩 気分 こめかみ	咳 血 点滴	ガス 胃 傷	痺れ リハビリ 痛み止め
O 無し 有り 介助 嘔気 トイレ 汚染 呼吸 腹部	排尿 夜間 表情	カテーテル スケール 不快 尿量 血尿	離握手(不可) 頭痛 血圧 困難 呂律	吸引 酸素 行為	蠕動 排液 不良 腹壁 ソフト	疼痛 腫脹 足趾 運動 固定 装着 車椅子
A 症状 経過 観察 注意 必要 有り 為 状態 転倒 無し リスク 増強 術後	ポータブル 不安 不眠 残尿 低下 排泄 食欲	褥瘡 血尿	梗塞 理解 麻痺 頭部 危険	点滴 認知	創痛 下血	トラブル 安静 肺 歩行 床上 皮膚 疼痛
P 経過 観察 統行 プラン 継続 計画 立案 説明 確認 症状 離床 センサー 作動	排尿	考慮 指示 状態	歩行 注意	モニタリング 吸引	ストッキング 弾性 除去 装着	体位 変換 床上 介助 皮膚 トラブル

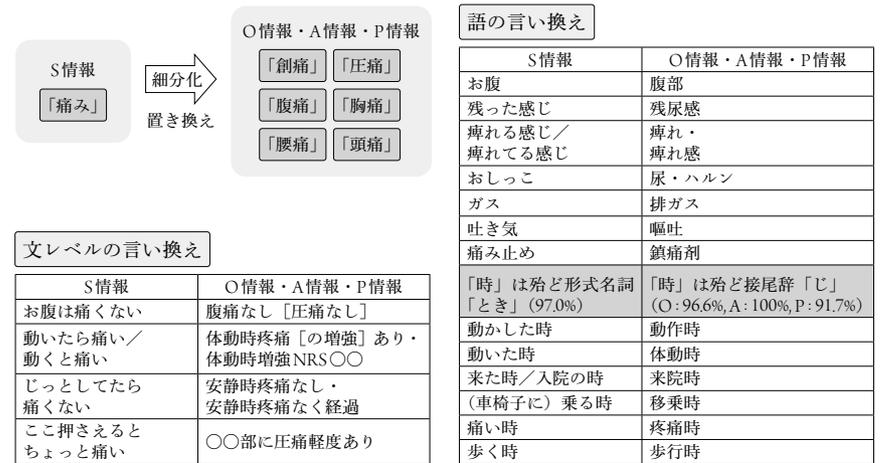


図1 語彙の細分化と言い換え

## 4.2 看護師国家試験語彙との比較

本項では看護記録語彙を看護師国家試験語彙と品詞別に比較した(異なり語数)結果を示す。両者の品詞構成の傾向はほぼ同様で、連体詞、接頭辞、接続詞、接尾辞、動詞、形容詞の重なり度合い(看護師国家試験・看護記録に共通に使用される語彙の看護記録全語彙に対する比率)が高く、看護記録全語彙に対する重なり語のカバー率が90%以上であることが明らかとなった。一方で、感動詞の重なり度合いが最も低いことも分かった(表4)。

さらに全体を見ると、重なり度合いが65.1%であり、そのカバー率が85.9%であった。つまり、看護師国家試験の出題語彙が習得されていれば、看護記録の作成にはそれほど困難を感じないと推測できる。しかし、看護師国家試験語彙がどれほど看護記録の作成に役に立つかは、その重なっている語彙の使用形態の重なり度合い等の確認も必要である。

## 4.3 日本語能力試験の級判定

本項では、看護記録全語彙について日本語能力試験の級判定を行った結果を示す。級内語彙が全体のほぼ6割を、級外語彙が全体の4割を占めており、級外語彙の使用も少なくないことが分かった。つまり、日本語能力試験N1に合格していても、看護記録作成に必要な語彙の5分の2はまだ習得できていないと言える。また、品詞別級判定の結果を見ると、接続詞、感動詞、代名詞、連体詞、接尾辞は殆どが4級語彙であった。形容詞(イ形容詞)は3級・4級語彙の使用が最も多かった。動詞、副詞は2級・4級語彙の使用が最も多かった。

表4 看護師国家試験と看護記録全体の品詞別重なり度合い一覧

	感動詞	副詞	代名詞	形状詞	名詞	形容詞	動詞	接尾辞	接続詞	接頭辞	連体詞
看護師国家試験語彙数	15	102	12	121	4249	88	620	166	7	68	17
看護記録語彙数	26	97	18	53	1986	74	373	117	4	38	9
共通に使用される語彙数	8	42	10	31	1274	51	261	83	3	30	9
重なり度 (%)	30.8	43.3	55.6	58.5	64.1	68.9	70.0	70.9	75.0	78.9	100.0
重なり語のカバー率 (%)	51.5	68.2	84.5	82.2	88.7	94.4	94.5	93.8	96.0	91.0	100.0

p<.01

	級外	級内			
		1級	2級	3級	4級
異なり語数	963	187	388	106	144
延べ語数	10442	3120	5560	1989	3316
比率(異なり語数)	53.9%	10.5%	21.7%	5.9%	8.1%
比率(述べ語数)	42.7%	12.8%	22.8%	8.1%	13.6%
		57.3%			

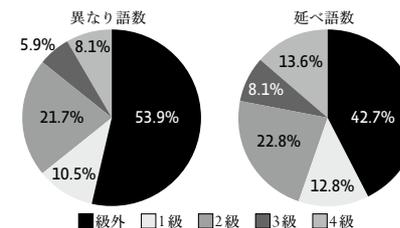


図2 看護記録名詞語彙の級別使用状況

形状詞(ナ形容詞)、接頭辞は2級語彙の使用が最も多かった。一方、名詞は他の品詞と異なる傾向を示しており、級外語彙の使用が名詞全体の半数を超えて最も多かった。図2は名詞語彙における級判定の内訳である。

日本語能力試験N2・N1レベルを目安とした日本語研修で学んできた外国人看護師は、研修後に級外語彙、特に級外名詞語彙を習得していく必要があり、それが大きな負担になっていることが予想される。また、級外名詞語彙では、「漢語」は596個もあり、使用割合が最も多かった(全級外名詞において、異なり語数比率63.8%、延べ語数比率78.2%)。しかし、級外漢語に中国語と同形同義、且つ発音が既習知識から容易に推測できる語が多く(例えば、「尿意」「胆囊炎」「腹水」「浮遊物」「排尿」「膀胱」など)、中国語の知識を利用した語彙使用が可能である場合も多いため、漢字圏・非漢字圏外国人看護師(候補者)に分けて考えることが望ましい。さらに、電子カルテが普及している今日、漢字の形より発音の方(「塞栓」「発赤」「褥瘡」など)が問題になることも推察される。級外語彙に関しては、申し送り等の口頭による業務を通じて聞き慣れているとも考えられるため、今後、申し送り語彙との比較を行うなどの調査が必要である。

## 5 今後の課題

以上、看護記録データに対する語彙分析を行い、非母語話者の視点から看護記録語彙の特徴を明らかにした。

本稿では、あくまで出現頻度による分析となっており、実際の医療現場における個々の語彙、特に級外語彙の重要度については扱うことができなかった。

今後は、現場の看護師としての専門的知識を加味した視点や、日本の医療機関に勤務する外国人看護師（候補者）の視点から、使用語彙に関するさらなる調査を行う必要がある。 〈中国・四川理工学院〉

## 注

- [注1] …… 林（2017）によると、外国人看護師が作成している看護記録も殆どが経過記録であった。
- [注2] …… N1は旧能力試験の1級、N2N3は2級、N4は3級、N5は4級と変換した。
- [注3] …… Carroll(1967)が提案したより適切な語彙の多様性指標である。CTTR(Carroll type-token ratio) = 異なり語数 / (2 × 延べ語数) の平方根。この値が大きいくほど語彙が豊富であるということになる。
- [注4] …… 海外技術者研修協会（2011）『場面から学ぶ看護の日本語』凡人社

## 参考文献

- 石原美知子（2012）「日本の医療現場における外国人看護師とコミュニケーション—病院赴任直後の言葉の問題を中心に」『リハビリテーションネットワーク研究』36, pp67–81.
- 奥田尚甲（2011）「看護師国家試験の語彙の様相—日本語能力試験出題基準語彙表との比較から」『国際協力研究誌』17(2), pp.129–143. 広島大学大学院国際協力研究科公益社団法人国際厚生事業団JICWELS（2013）「平成24年度厚生労働省看護職員確保対策特別事業『EPA看護師に関する調査事業報告書』」
- 厚生労働省（2005）審議会議事録「第10回検討会において「看護記録」について出された主な意見」<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2005/10/s1017-12.html>（2017年6月1日参照）
- 永井涼子（2010）「情報伝達ストラテジーと会話管理—看護師の「申し送り」会話におけるインターアクションに着目して」筑波大学人文社会科学研究所博士論文
- 永井涼子（2013）「看護師談話の分析を応用した教材作成の試み—引き継ぎ報告「申し送り」を対象に」『日本語教育方法研究会誌』20(2), pp.42–43. 日本語教育方法研究会
- 日本看護協会（2002）『日本看護協会看護業務基準集』p.146. 日本看護協会出版社
- 本田みき子（2010）『記載例でわかる看護記録時短・改善』p.58. 日経研出版
- 森田敏子（2006）「経過記録とフローシート、POS」『月刊看護きらく』16(4), pp.3–11.
- 林琳（2017）「中国人看護師（候補者）の受入れ現状—受入れの概要と日本語支援—日本語問題を中心に」『奈良教育大学国文研究と教育』40, pp.52–67. 奈良教育大学国文学会
- 李在鎬・平尾明美・久保圭ほか（2016）「看護学生の実習記録から抽出した専門語600」2016年度日本語教育学会春季大会研究発表・ポスター発表
- Carroll, J. B. (1967) On sampling from a lognormal model of word-frequency distribution. In H. Kucera & W. N. Francis (Eds.) *Computational analysis of present-day American English* (pp.406–424). RI: Brown University.